

9月の日本地質学会で初の学術発表

講演会・座談会

四国電力伊方原発 広島への危険性 新たな学術的知見

広島大学大学院理学研究科・地球惑星システム学科
早坂康隆准教授

伊予灘中央構造線の位置と

伊方原発周辺の地震ポテンシヤル

〜想定されるあらゆること〜

2016.11.13（日）広島講演

14:00～17:00 入場無料・予約不要（資料代500円）

ホテルメルパルク広島5階「瀬戸の間」

共催

“STOP! 伊方” 広島の大学人の会／中国文芸研究会／伊方原発広島裁判原告団・応援団

お問い合わせ先

伊方原発広島裁判応援団事務局 〒733-0012 広島市西区中広町 2-21-22-203

E-mail:saiban_office@hiroshima-net.org URL:http://saiban.hiroshima-net.org

被爆地ヒロシマが被曝を拒否する

— 過去は変えられないが未来は変えられる —

伊方原発運転差止広島裁判

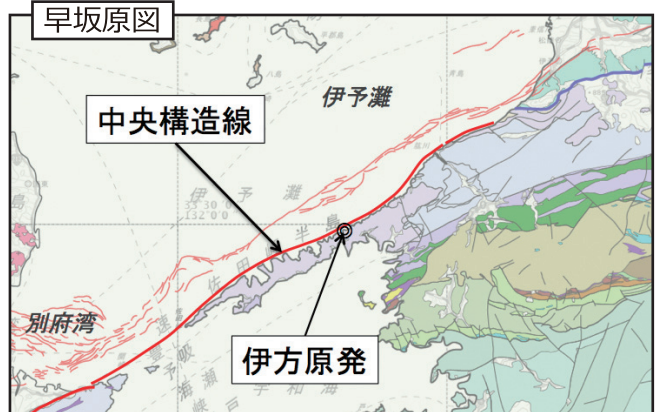
講演会・座談会

伊予灘中央構造線の位置と 伊方原発周辺の地震ポテンシャル ～想定されるあらゆること～

広島大学大学院理学研究科早坂康隆准教授（専攻は岩石学・構造地質学・地質年代学）や愛媛大学前学長小松正幸名誉教授（専攻は岩石学・構造地質学）らのグループは、伊方原発近傍の活断層は、従来いわれていた前面海域断層帯（同原発から6～8 km 沖の海域）だけでなく、敷地から約 600m 沖に危険な活断層が存在している可能性を明らかにし、本年9月の日本地質学会学術大会で発表した。この新たな知見は、公表したばかりでもあり学界内でのコンセンサスが得られる段階にはないが、ここ2～3年以内に伊方原発の危険性についての有力な共通知見となる可能性が大きい。私たちはこの新たな知見をいち早く市民社会に紹介・普及し、市民の知的共有財産とする目的をもって本講演会を開催する。ひとたび原発で過酷事故がおければ「国破れて山河もなし」となる。二度と「想定外」とは言わせまい。



▲地震調査研究推進本部 web サイト「中央構造線断層帯 石鎚山脈北縁西部～伊予灘」



第 I 部 (14:00～15:30)

早坂康隆准教授 講演会

「伊予灘中央構造線の位置と伊方原発周辺の地震ポテンシャル: 想定されるあらゆること」



第 II 部 (15:30～17:00)

座談会・質疑応答

- 出席者
早坂康隆 (広島大学大学院理学研究科 准教授)
胡田 敢 (胡田法律事務所 弁護士)
行友太郎 (中国文芸研究会)
西本 彩 (伊方原発広島裁判 原告)
- 司会進行
崔 真碩 (広島大学大学院総合研究科 准教授・原告)
- 特別ゲスト
小松正幸氏 (愛媛大学 前学長)

2016.11.13 (日)

ホテルメルパルク広島 5 階「瀬戸の間」 〒730-0011 広島市中区基町 6-36
【TEL】082-222-8501

入場無料・予約不要 (資料代 500 円)

共催

“STOP! 伊方” 広島の大学人の会 / 中国文芸研究会 / 伊方原発広島裁判原告団・応援団

お問い合わせ先

伊方原発広島裁判応援団事務局 〒733-0012 広島市西区中広町 2-21-22-203
E-mail: saiban_office@hiroshima-net.org URL: http://saiban.hiroshima-net.org

